

ラテン系の曲では、ユニゾンでパーカッシブ的に細かいフレーズを演奏することが多くあります。2～3オクターブくらいの間隔をとったユニゾン・フレーズを弾くとグッとラテンチックに聴こえるので、余裕のある人は試してみてください。カッコ良く弾く決め手は、2拍子系のノリで捉えることです。

check!

木

check!

194  
365



## コード進行的ユニゾン

Track 200

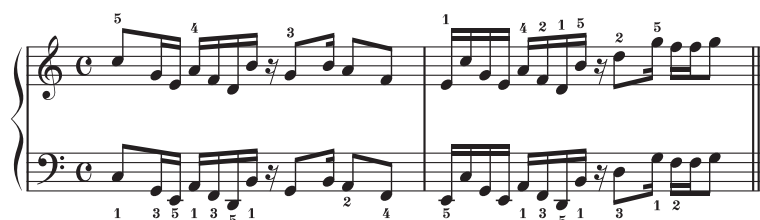
♩=80

ハーモニーをなぞるようなユニゾン・フレーズです。C-F-B<sup>b</sup>-E<sup>b</sup>のコード進行で弾いていると感じられると、たった2小節でもまとまりやすくなります。

金

check!

195  
365



## 上下左右に自在なユニゾン

Track 201

♩=80

凸凹フレーズにしっかりと対応できる指の機敏さを養っていきましょう。リズムを図形のように捉えてみてください。どちら向きに進むかを覚えてから弾くと良いでしょう。

土

check!

196  
365



## 上下左右+3連ユニゾン

Track 202

♩=80

さらに複雑化して、3連も加えました。リズムが崩れやすくなるので、手の平側の意識がゆるんでいると思うように弾けません。どんなリズムもこなせる指を目指しましょう。

日

## モントゥーノ・パターン

モントゥーノとは、ラテンの中でも特にサルサというジャンルでよく使われるピアノのフレーズ・パターンとして知られています。両手のオクターブ・ユニゾンが延々と繰り返される、パーカッシブなフレーズが特徴的です。ラテン系、とひとことで言ってみても、実際に注目してみると奥が深いものですね。

モントゥーノという言葉の本来の意味は「山の、山岳風の」で、曲の山場などを示すのに使われていました。毎日(p.76)のトレーニングに使っているフレーズが、モントゥーノの一種です。まだまだいろいろなパター

ンがあるので、興味が湧いた人は深追いしても良いでしょう。